

1 基本項目	事務事業名	森林病虫害等防除事業			担当 部署 署	課名	農林水産課	
	予算事業名	森林病虫害等防除事業				係名	業務林政係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1036	
	事業期間	開始年度	平成9年度	終了年度		当面継続	会計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標5 豊かな自然と共生したまち				款	農林水産業費	
	政策名	12 自然環境の保全・継承				項	林業費	
	施策名	35 水と緑の保全と活用				目	造林事業費	
基本事業名	35-2 森林の整備・保全				アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	県内唯一の「航行目標保安林」として指定され、魚津市の歴史的価値を有する天神山において、松林の保全活動を実施している。
	対象	天神山の松林
	手段 (活動指標)	松くい虫の防除(薬剤樹幹注入)
	意図 (成果指標)	計画的に薬剤樹幹注入を行うことで、松林の保全を目的とする。

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 処理本数(松)	本	15	18	15	24	160.0%	15
	②							
	③							
成果指標	① 被害本数(松)	本	0	0	0	0		0
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円	372,000	288,000	384,000	371,200	28.9%	372,000
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円						
	支出合計(A)	円	372,000	288,000	384,000	371,200	28.9%	372,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円	279,000	216,000	288,000	278,400	28.9%	279,000
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円	93,000	72,000	96,000	92,800	28.9%	93,000
	収入合計	円	372,000	288,000	384,000	371,200	28.9%	372,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	2	2	2	2	0.0%	2
	②年間所要時間	時間	140	140	140	140	0.0%	140
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	588,000	588,000	588,000	588,000	0.0%	588,000
	総費用(A+B)	円	960,000	876,000	972,000	959,200	9.5%	960,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	施業は新川森林組合へ委託。 薬剤注入本数 128本(注入対象木本数 24本)	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
						1次評価	2次評価
妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	県内唯一の「航行目標保安林」として指定されている天神山の松林の保全は、自治体が関与すべき事業であり適正である。	
				目的の妥当性	1 妥当である		県内唯一の「航行目標保安林」として指定されている天神山の松林の保全事業であり、妥当である。
				対象の妥当性	1 妥当である		県内唯一の「航行目標保安林」として指定されている天神山の松林を対象とする事業であり、妥当である
有効性	有効性	A	B	目標達成度	1 高い	計画的に薬剤樹幹注入を実施できている	
				類似事業の有無	2 検討の余地あり	類似事業は無し	
				上位施策への貢献度	1 高い	「航行目標保安林」を管理するだけでなく、森林の持つ公益的機能の維持増進を図る事業でもあり貢献度は高い。	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	県単価を使用している	
				実施主体の適正化	1 適正である	森林整備の知識・技術を有している森林組合を実施主体としており、適正である	
				負担割合の適正化	1 適正である	補助事業を活用し、県、市が負担割合に応じて実施しており適正である	
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	
	後の評価 (課題及び今後の方針)	終息に向かって松くい虫被害であったが、平成24年度から県下の増加傾向に転じた。本市が実施する事業は、航行目標保安林である天神山の松林に施しており、計画的、継続的に実施する必要がある。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	水と緑の森づくり事業			担当 部署	課名	農林水産課	
	予算事業名	水と緑の森づくり事業				係名	業務林政係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1036	
	事業期間	開始年度	平成19年度	終了年度		平成28年度	會計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標5 豊かな自然と共生したまち				款	農林水産業費	
	政策名	12 自然環境の保全・継承				項	林業費	
	施策名	35 水と緑の保全と活用				目	造林事業費	
基本事業名	35-2 森林の整備・保全				アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	人家、耕地周辺などの里山林（モウソウ竹林含む）、小規模な風雪被害林やカシノナガキクイムシの被害木の伐採跡地などで、整備及び管理又は利用について地域の合意形成が図られている森林を対象に、地域や生活に密着した里山の再生整備を行う。
	対象	市内民有林
	手段 (活動指標)	事業実施地区の整備や管理・利用についての計画の策定や、そのために必要な森林調査や森林所有界の確認を行い、県・市・森林所有者の3者による協定の締結後、広葉樹や竹林などの伐採、玉切り、集積を行う。
意図 (成果指標)	放棄され暗くなった里山林を地域の合意のもと策定された計画に基づいて伐採など整備を行い、明るい里山を再生する。	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動 指標 成果 指標	① 里山整備箇所数（累計）	箇所	26	26	31	31	100.0%	32
	②							
	③							
	① 里山整備面積（累計）	ha	143.8	142.0	174.0	173.7	99.8%	226.6
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円	291,000	291,000	485,000	415,000	42.6%	97,000
	②委託料	円	28,714,000	21,041,300	29,332,000	28,126,590	33.7%	35,577,000
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円	159,000	153,000	265,000	255,000	66.7%	53,000
	支出合計（A）	円	29,164,000	21,485,300	30,082,000	28,796,590	34.0%	35,727,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円	29,164,000	21,485,300	30,082,000	28,796,590	34.0%	35,727,000
	③地方債	円						
	④その他（使用料、雑入等）	円						
	⑤一般財源	円						
	収入合計	円	29,164,000	21,485,300	30,082,000	28,796,590	34.0%	35,727,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	2	2	2	2	0.0%	2
	②年間所要時間	時間	600	500	600	560	12.0%	560
	③人件費（②×@ 4,200円）（B）	円	2,520,000	2,100,000	2,520,000	2,352,000	12.0%	2,352,000
	総費用（A+B）	円	31,684,000	23,585,300	32,602,000	31,148,590	32.1%	38,079,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<p>○富山県、地権者、魚津市の3者において、里山再生整備事業の実施に関する協定書を、9～11月にかけて締結した。</p> <p>○協定を締結した森林について里山の再生整備を、9～3月にかけて行った。</p>	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
						1次評価	2次評価
妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	1次評価	必要
				目的の妥当性	1 妥当である		
				対象の妥当性	1 妥当である		
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	2次評価	不要
				類似事業の有無	1 なし		
				上位施策への貢献度	1 高い		
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	1次評価	必要
				実施主体の適正化	1 適正である		
				負担割合の適正化	1 適正である		
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当			
	後(課題及び今後の方針)の評価結果	県税「水と緑の森づくり税」による県の定額補助事業である。地域や生活に密着した里山の再生など森林の持つ多面的機能、公益的機能の保持や森林整備に欠かせない事業であり継続的に実施していく必要がある。				評価結果	